

Relationship Between Aging, Menopause, and Eicosapentaenoic Acid/Arachidonic Acid Ratio in Women With Dyslipidemia in Tokyo

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: en 出版者: 公開日: 2023-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 真理子 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.20780/00033461 |

主論文の要約

Relationship Between Aging, Menopause, and Eicosapentaenoic Acid/Arachidonic Acid Ratio in Women With Dyslipidemia in Tokyo (東京の脂質異常症女性における年齢、閉経とエイコサペンタエン酸 / アラキドン酸比との関係)

東京女子医科大学 総合診療・総合内科学分野

(指導:竹村洋典 教授) 印

佐藤 眞理子

Tokyo Women's Medical University Journal 2022; Vol.6 : p108-116 (2022年12月20日発行)に掲載

【目的】

血清エイコサペンタエン酸(EPA)/アラキドン酸(AA)比(sEAR)は食事の影響を受け冠動脈疾患リスクと負の相関がある。近年生活様式の変化で食生活は変化した。本研究は東京の女性脂質異常症患者の年齢と sEAR との関係、年齢階層別血清脂肪酸 24 分画(sFA24F)値、更年期の sEAR への影響を調査した。

【対象および方法】

対象は2012年1月~2015年1月に当院を受診した脂質異常症女性患者89名(36~76歳、平均56.6歳)。EPA服薬、心血管系疾患、婦人系手術、ホルモン療法、悪性疾患、は除外。sEARと脂肪酸のsFA24F中重量比(%)(重量比)を年齢別に比較するため患者を三分位に分類。<52歳(n=28)、52~58歳(n=30)、58歳(n=31)。3群間で一元配置分散分析(ANOVA)とTukey検定を使用して比較。月経情報がある82人を閉経後(n=66)、非閉経後(n=16)に分類してsEARを比較。閉経後の定義:1年以上無月

経で、FSH 40mIU/mL 以上かつ E2 20pg/mL 未満。

【結果】

sEAR、血清 EPA やドコサヘキサエン酸 (DHA) の重量比は、>58 歳で他より高値。

AA 重量比は 3 群間で差なし。リノール酸やドコサテトラエン酸の重量比は、<52 歳よ

り>58 歳が低値。sEAR は閉経後と非閉経後とで差なし。

【考察】

年代別 sEAR の差は、EPA の影響が考えられる。n-3 系脂肪酸の EPA は広義必須脂

肪酸で、重量比は経口摂取の影響を受ける。n-3 系脂肪酸の DHA は>58 歳で他よ

り重量比が高値。n-3 系脂肪酸は魚の摂取量に伴い血中濃度が上昇する事から<52

歳・52~58 歳の魚摂取量の低値が推測された。総務省の報告では大都市は地方小都

市より外食頻度が多い。長時間通勤等で外食やコンビニ食使用の頻度が多く、海産

物摂取の機会が少ない可能性がある。この仮説の確認には食事内容・雇用・労働時

間のさらなる研究が必要である。本研究では閉経後と非閉経後とで sEAR に差がなく、

閉経は sEAR に大きな影響を与えていない可能性がある。

【結論】

都市部の女性では、sEAR は上位年齢層で高く、閉経の影響は認めなかった。この結

果は n-3 系脂肪酸を含む海産物の摂取量の違いによって引き起こされた可能性があ

る。